

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201263		
法人名	北商株式会社		
事業所名	グループホーム ライフケア北倶楽部		
所在地	札幌市北区北28条西12丁目3-13		
自己評価作成日	平成25年6月13日	評価結果市町村受理日	平成25年7月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanl=true&amp;JigyosyoCd=0170201263-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanl=true&amp;JigyosyoCd=0170201263-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の過去の生活状況を踏まえ、それぞれにあった環境を提供することで、個々に合ったサービス提供を行います。これまでの暮らしの延長上で快適で安心して暮らす為の支援を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市内の古くからの商店街地区にあり、バス停からも近い1ユニットのグループホームである。周辺にはコンビニエンスストアやスーパー、学校などがあり、利便性が高く、利用者が徒歩での外出を楽しめる環境となっている。ホームは元のすし店を改築した和風の落ち着いた造りで、調度品や装飾も家庭的である。地域との関係が良好で、行事での住民との交流があり、運営推進会議や避難訓練における住民の協力が得られている。職員間のコミュニケーションが良好であり、就業状況も安定しているため利用者の安心につながっている。運営法人が他にもグループホームと小規模多機能事業所を運営しているため、各種の書類やマニュアル、内部研修、合同行事などが整っており、職員との面談や相談、キャリアアップに向けた支援体制も充実している。利用者の情報の蓄積や日常の記録についてはパソコンソフトを活用し、情報の共有や必要な情報をすぐに取り出して活用する体制を整備している。災害対策の面では、消防署や地域の消防団の協力も得ながら年に5～6回程度、昼・夜を想定した避難訓練を実施している。年間を通して様々な外出行事を行っており、希望に応じた個別の外出支援も行って、利用者が充実して過ごせるようサービスの向上を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、その人らしい生活を送れる様にスタッフが情報を共有し支援の工夫をしています。利用者が主体となった生活を送れる様にスタッフ全員で意見交換をし実践が行われています。	法人共通の理念「四つの望み」の中で「地域や自然と共に生きてほしい」という文言を掲げ地域密着を意識した理念を確立しているが、職員の理念の共有は十分と言えず、事業所独自の理念や目標については今後の検討事項である。	理念について職員全員が理解し共有できるような取り組みを期待したい。また、前年からの検討事項となっている事業所独自の「ケア理念」や「ケア目標」についても作成を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に町内会の行事に参加させていただき、交流させていただいています。また、施設内での行事にも声を掛けさせていただき参加いただいています。	事業所が商店街の一角にあり、地域に溶け込み近隣との交流は盛んである。夏祭りやごみ拾いなど地域の行事に参加するほか、事業所の年間行事であるバーベキューや避難訓練、日常のレクリエーション活動などに地域の方の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的事例をスタッフミーティングで話し合ったり、定期的な施設内外の研修で認知症の対応について検討しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、民生委員やボランティアの方や町内会、地域包括支援センターの方との意見交換をさせていただいています。	運営推進会議は2か月に1度のペースで開催され、地域包括支援センター職員、地域住民、利用者本人などの参加を得て、年間行事や消防訓練、認知症の理解などのテーマで意見交換されている。一方、最近では家族の参加が得られていない。	利用者家族の会議への参加を促すとともに、参加が難しい場合は事前に意見を聞いたり、アンケートを実施するなど、家族の意見を会議に反映する取り組みを期待したい。また、議事録を家族に送付することも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者会議等に参加したり、定期的に本部担当者が市町村担当者と綿密に連絡をとる等、連携に努めています。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加を得ている。市や区の管理者連絡会議に参加し行政担当者と情報交換するほか、本部職員がメール等で普段から連絡を密に取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社全体で、現場での些細な事例においても検討し、直接的、間接的な身体拘束について日々問題提起を行っています。	身体拘束は行われておらず、禁止の対象となる具体的な行為を示した身体拘束マニュアルを整備している。また、身体拘束に関する内部研修を開催し理解を深めている。玄関は夜間のみ施錠し、昼間は利用者が自由に出入りできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	直接的な虐待は勿論のこと、言葉の使い方や間接的な虐待に当たらないか？等、スタッフ間で相互評価し、日常生活の声掛けや対応に注意し防止に努めている。		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ、成年後見人制度を使うまでに至っていない利用者ばかりですが、必要があれば活用出来る様、日頃より情報収集し支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、本部担当が事前に十分説明を行った上で、契約いただいています。また変更点が生じた場合は、事前に書面で通知した上で、了解いただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族訪問時や行事参加時に、意見交換を行いご要望をお聞きし参考にさせていただいています。	家族の来訪時や行事参加、介護計画を説明する際などに意見を得ている。また、ホーム便りを毎月作成して家族に送付し、様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフと意見や提案を月2回の会議やミーティングなどで報告しています。本社からの個別面談や電話連絡など、個人的な意見交換もしやすい環境になっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の置かれている生活環境や、個々の能力をよく把握した上で、雇用条件を決め、また労働意欲を向上させるような職場環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部研修課が定期的に個々の能力にあった外部研修を選択し提案を行っています。また年間の研修計画を立てスキルアップを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、積極的に運営役員を務めることで同業者との連絡調整を行い、より深い関わりを持つよう様になっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族より、本人の状況の聞き取り及び、本人の要望を十分に踏まえた上で、認知に関わるメンタルケアに重点を置いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、ご相談には出来る限り対応をさせて頂ける様に話し合いの場を設けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要介護状態、本人の状態(生活環境)を踏まえた上で自立(自律)の為の必要な支援のみを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない部分はお手伝いし、可能と思われる部分ではご本人が楽しみながら出来る様にスタッフが配慮しています。また、利用者ご本人が進んで出来る役割を個々に持っていただいています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフのケアでは補えない部分もあり、特にメンタル面でのケアについてはご家族にも相談し一緒に関わって頂く様にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の馴染みの人間関係や場所よりは、施設をご利用をいただいてからの新しい人間関係の構築や新しい馴染みの場所を作ることを目標としています。	宗教やボランティア関係の知人が来訪する利用者がいる。地域の喫茶店やスナックなどに馴染みの場所をつくり、職員が利用者と一緒に出かけている。また、外出行事の花見に利用者のお墓に近い場所を選び、お墓参りができるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係も十分に把握し、尚且つスムーズに皆がお互いに関わり合っていける様、その為の接点で有る事も踏まえて支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後(入院後)も、状況把握の為、関係者との面会の機会を持ち、必要に応じ支援を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りの対応をさせて頂き、常にスタッフ全員、ミーティングにて対応しています。	言葉で思いや希望を表出できる方が多いが、難しい場合も仕草などからできる限り意向を把握している。フェイスシートや生活歴シートに個々の情報を蓄積し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	園芸、買い物、外食、外出等、自由に利用者のニーズに対応したサービス提供を心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動観察や、コミュニケーション通じてその日の利用者様の状態(身体・精神状態)を把握し、協力支援に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、スタッフ全員でモニタリング、意見等を出し、常に介護方針が共有できるように話し合っています。	介護計画は短期6か月、長期1年で見直し作成している。担当職員による評価をもとにカンファレンスを実施し、本人や家族の意見も反映して計画を作成している。日常観察記録は介護計画を参照しながら目標項目を意識して作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	データベースシステムの利点を十分に活用に、スタッフ間での情報共有を円滑に行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望、ご家族の状況等を把握した上で、外出、外泊の調整をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して、生活、行動が出来る様また、地域との繋がりを持つ為にボランティアの協力を呼び掛けています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携協力医療機関と連携し、定期往診や必要に応じた往診サービスを提供していただいています。またご希望があれば、協力医療機関以外の受診の支援も行っています。	協力医療機関による2週に1度の往診を受けている。その他の通院は家族対応としているが、状況に応じて事業所で支援している。受診内容は、「通院・往診」の категорияに区分しパソコンに記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、小さな事も伝え、スタッフ同士で決めず看護師及び、担当医等へ相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医師やソーシャルワーカーを治療方法やリハビリ計画を立てていただく際の詳細な情報提供を行い、相互協力関係を築いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人とご家族から重度化した場合の対応について都度話し合いを行い、主治医と連携し、施設としての可能な限りの対応を行える様スタッフ全員で取り組んでいます。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係わる指針」を家族に説明している。事業所として看取りまでの対応は難しい旨を説明し、本人や家族と方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応出来る様に、外部研修に参加している。また、繰り返し内部研修を行い実践出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者と一緒に年2回、消防署の協力のもと訓練を行い、2ヶ月に1回は自主訓練を行っています。運営推進会議を通して地域の方や消防署、地域消防団にも参加して頂き、意見交換や状況報告など協力もいただいています。	年に5～6回程度、昼・夜を想定した避難訓練を実施しており、それぞれの訓練で消防署や地域の消防団員の協力を得ている。職員は救急救命訓練を定期的に通講しており、災害時に必要な備蓄品も準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者へ言葉遣いや声のトーン、表情に気を付けスタッフ対応しています。個人の尊厳を重視して、変化を見過ごす事の無いようスタッフが協力しています。	利用者への呼びかけは「名字」か「名前」に「さん」付けを基本とし、「笑顔、挨拶マナー研修」を行うことで利用者を尊重したケアを実践している。個人情報にはパソコンで管理し、個人ファイルは事務所で安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立(自律)を促す為、支援し過ぎないケアを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の要望を聴きやすい環境を作っています。また、否定する事無く、傾聴し共感するようにスタッフ間同士の連携も図っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事の時に化粧やマニキュアを支援したり、個々の嗜好に沿ったおしゃれをいつでも楽しんで出来る様にしています。		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別の嗜好を把握し、食事を楽しんで頂ける様に調理を工夫したり外食レクも行っています。スタッフが見守りながら配膳、片付けなども行っています。	以前は食材会社を利用していたが、旬のものや利用者の好みを取り入れる目的で、現在は、本部で献立から食材の発注までを一括管理している。また、畑で収穫した旬の野菜も食卓を賑わせている。利用者は食事の準備や後片付けを職員と一緒にを行い、会話しながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量もチェックを行い、不足の場合はスタッフで話し合い工夫をして提供しています。その人の嗜好を重視して、摂取しやすい様な個別の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前、食後、声掛けで行い出来ない所は、スタッフが介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けやポータブルトイレを使用し、可能な限り自立に近い排泄支援を行っています。	約半数の利用者が職員による声かけや誘導による排泄支援を受けている。トイレでの排泄が困難な利用者にも衛生用品の工夫などで、できるだけトイレで排泄できるように支援している。職員の声かけも羞恥心に配慮して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック、水分摂取量や食事のすすみ具合、睡眠出来ていたかなど、またその人が出来る運動を心掛けています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんで頂ける様に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴しています。	入浴日は火・金曜日の週2回、午前9時半～午後4時位までの時間帯で全員が入浴している。車椅子の利用者には2人介助を、自力で入浴できる利用者には見守りするなど個別に対応している。希望者には、健康センターでの入浴も支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度や、明るさ、音等の環境や部屋割り(人間関係)を調整することで安心できる環境作りを心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関する情報はスタッフ共通の認識で取り組み、また利用者に応じた支援を行い、必要に応じ医療機関と連携し迅速に対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の対応をする様に心掛け、気分転換を行える様にしています。		

グループホーム ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事で集団での外出もありますが、個別対応も重視しています。利用者が喜んで外気に触れる様に個別の嗜好に対応して、不安なく外出が出来る様にしています。	天候の良い時期には、希望すれば近隣の商店や公園などを毎日でも散歩できる。年間外出行事で、お花見や花火見物、工場見学、雪祭り、海水浴等が企画されている。また、個別レクリエーションで大型ショッピングセンターやドライブなどに出かけている。冬場でも月1回以上は外出できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意思を尊重し、施設では最小限の支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要最低限の支援又は、それが難しい場合は一緒に行う等の支援を心掛け、本人は少しでも関わられる機会を作っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	置物、ソファの配置等、くつろぎやすい演出を考慮しています。ガーデニング等も取り入れていきます。	寿司店であった建物を改造しており、建物内部は和風の落ち着いた雰囲気である。2階には7室あり、廊下のコーナーにはテーブルや椅子が配置され、ゆったりと寛ぐことができる。階段の昇降をリハビリの一環ととらえており、手すりには滑り止めを巻き安全性に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1F、2Fそれぞれソファ、イス等でくつろげる空間を工夫し気の合った利用者同士が過ごせるサロンになっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具及び寝具、ご家族の写真、仏壇等により、今までの生活環境を維持出来る様、努めています。	居室には大型テレビや仏壇、馴染みの家具などが持ち込まれ、壁には家族の写真を飾るなど居心地良く過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の出来る事を大事にし、生きがいや役割りの持った日常生活が送れる様にしています。出来る事が出来なくなるならない様にスタッフ間も連携を取っています。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム ライフケア北倶楽部

作成日：平成 25年 7月 12日

市町村受理日：平成 25年 7月 17日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践 職員の理念の共有が不十分。 事業所独自の理念や目標がない。	職員全員が理念を理解し共有する。 事業所独自の理念や目標を作成する。	事業所独自の理念や目標の作成。 再度ミーティングにて理念を理解し共有する。	3か月
2	3	運営推進会議を活かした取り組み ご家族の方の参加が得られていない。	ご家族の方にも運営推進会議に参加していただき、 ご家族の意見を会議に反映させる。	ご家族に参加を促し、参加が難しい場合は事前に意見を聞いたりアンケートを実施するなどし、家族の意見を反映させ、議事録をお送りする。	6か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。